

愛知県青少年育成県民会議だより

Next Generation

次 代

第158号 2024.10



第55回愛知県青少年育成県民会議青少年団体等表彰受賞者の皆様

CONTENTS

表紙／第55回愛知県青少年育成県民会議青少年団体等表彰受賞者 …	1
第55回愛知県青少年育成県民会議青少年団体等表彰受賞者一覧 …	2
私の意見～道徳公園パトロール隊～ ……………	3
令和6年度「少年の主張」愛知県大会が開催されました ………	4
令和6年度「少年の主張」愛知県大会「最優秀賞」作品紹介 ……	5
「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動(夏期)」を実施しました …	6
11月は「子ども・若者育成支援県民運動」の強調月間です ………	6
第63回「青少年によい本をすすめる県民運動」……………	7
令和6年度ボランティア活動功労者表彰受賞者一覧 ……………	8
「みんなのネットモラル塾」を開講しています ……………	8
子ども・若者未来会議を開催します ……………	8



愛知県青少年育成推進キャラクター
「ゆうりい」

第55回愛知県青少年育成県民会議青少年団体等表彰受賞者一覧

県民会議では、毎年県内において青少年の健全育成に多大なる貢献をされた個人・団体を表彰しており、この度、個人の部：9名、団体の部：5団体が受賞されました。

日頃の活動に改めて感謝申し上げるとともに、今後も、それぞれの地域、立場での一層の御活躍を期待します。

■個人の部(青少年)

該当者なし

■個人の部(青少年育成者)

(敬称略)

氏 名	住 所	所 属 団 体
池野 定雄	豊田市	愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会
糸川 文祐香	みよし市	学校法人尾張学園豊田大谷高等学校
川口 由美	東海市	一般社団法人日本ボーイスカウト愛知連盟
近藤 ひとみ	名古屋市昭和区	昭和区子ども会育成連絡協議会
関戸 誠	岩倉市	岩倉市子ども会連絡協議会
永田 恵子	小牧市	小牧山吉五郎太鼓保存会
那須 千代子	名古屋市千種区	中日子ども会
村瀬 行雄	春日井市	日本ボーイスカウト愛知連盟尾張東地区春日井第8団
山田 勝己	江南市	江南市スポーツ少年団
計9名		

■団体の部(青少年団体)

団 体 名	所 在 地
日本ボーイスカウト愛知連盟東海第4団	東海市
日本ボーイスカウト愛知連盟名古屋第82団	名古屋市守山区
計2団体	

■団体の部(青少年育成団体)

団 体 名	所 在 地
小牧西中学校区青少年健全育成会	小牧市
名古屋市立大江中学校PTA	名古屋市南区
日進市梨の木学区家庭教育推進委員会	日進市
計3団体	

私の意見～道徳公園パトロール隊～

名古屋市立大江中学校 PTA会長 楯 麦穂

■ 道徳公園パトロール隊 ■

愛知県名古屋市南区に道徳公園があります。野球場、テニスコート、バスケットボールコート、こども用の遊具、そして国の有形文化財にも登録された道徳公園クジラ池噴水などを擁しています。道徳公園では2015年頃から、中学生・高校生を中心とした若者たちによるトラブルが続いていました。そこで、警察・機動隊と協力し、近隣の大江中・明豊中ブロック4学区の公民会と6つの小中学校のPTAが集まり、幾度となくパトロールをしました。その結果、いったんは沈静化していた公園でしたが、2016年の夏休みに道徳公園に中高生が集まっているとの情報があり、各校PTA会長を中心としたメンバーでパトロール活動を再開することとなり、前年度の大江中PTA会長・副会長が中心となり、2つの中学校、4つの小学校のPTA会長・副会長の総勢15名程で結成されました。



■ 子どもの居場所づくり ■

パトロール隊の活動は、若者たちに寄り添い、声をかけながら早く帰るよう促すことでした。初めは声をかけると警戒していた彼らも、毎週顔を合わせるうちに、少しずつですが言葉を交わすようになり、一つ二つと本音を言ってもらえるようになりました。その中で、若者たちは悩みや孤独を感じており、SNSなどを通じて違う地域の若者たちと連絡を取り合い、夜出歩ける友達を募ったりしていることも分かり、公園



に集まる理由が「居場所づくり」や「仲間探し」であることを理解することができました。そんな中、道徳公園にあるバスケットボールコートをどうしたら正しく利用できるようになるか、深夜に集まっていた若者たちと話す機会がありました。その話し合いを発端として、地域の方々や公民会の働きかけのおかげもあり、2017年春にモルテンバスケットボールパークが誕生しました。その命名権売却による協賛金により運営費を賄い、若者たちによる自主運営が実現しました。2023年には、バスケットボールパークをリニューアルオープンさせ、今では子どもから大人まで集まる道徳公園に生まれ変わりました。

■ 今後の活動目標 ■

今でも、毎週金曜日22時頃にパトロールを行っています。パトロール活動は迷惑行為を行う若者たちを「排除」することが目的ではありません。彼ら一人一人に寄り添い、意見を聴くことで「居場所」を認めることだと考えています。地域の未来を担う若者たちにこの活動の意義が伝わり、次の世代に繋がっていくことを願っています。



令和6年度「少年の主張」愛知県大会が開催されました

愛知県・愛知県青少年育成県民会議・独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催し、愛知県教育委員会・新城市・新城市教育委員会が共催する「令和6年度少年の主張愛知県大会」が、8月23日(金)に新城地域文化広場で開催されました。

県内247校の中学校から、35,312名の応募があり、各地区から選ばれた中学生が日頃からの思いや自分の考えを堂々と力強く発表しました。

発表は、家族・学校生活・現代社会や地域に関する内容などで、いずれも社会や世界、そして未来に向けて前向きな考え方をもち、行動しようとする意欲に溢れていました。

各賞の受賞者は右表のとおりですが、最優秀賞を受賞した村木新さん(西尾市立鶴城中学校3年)が、全国大会の出場候補者に推薦されることになりました。

種 別	題 名	受 賞 者
最優秀賞 (愛知県知事賞)	「じゃない方」になって 気づいたこと	西尾市立鶴城中学校 3年 村木 新
優秀賞 (愛知県議会議長賞)	こどもまんなかの社会へ	岡崎市立六ツ美中学校 3年 神谷 瑠音
優秀賞 (新城市長賞)	戦争のない世界へ	稲沢市立大里東中学校 3年 安藤 咲希
優秀賞 (愛知県教育委員会賞)	知ってほしい私の世界、 私の思い	新城市立千郷中学校 3年 牧野 一貴
優秀賞 (愛知県青少年育成県民会議会長賞)	「二つの小さな命と出会って」	一宮市立北部中学校 3年 落合 奏重
奨励賞	笑顔溢れる海を目ざして	田原市立田原中学校 3年 安藤 さくら
奨励賞	難しくて奥深い	豊川市立中部中学校 3年 飯島 ディスミ
奨励賞	自分らしさ	碧南市立新川中学校 3年 木村 茅咲
奨励賞	ふるさとの魅力、発掘	西尾市立佐久島しおさい学校 3年 黒田 空蒼
奨励賞	究極の二択?	新城市立八名中学校 2年 竹内 結希
奨励賞	あの壁の向こうには	あま市立七宝北中学校 3年 戸谷 桜大
奨励賞	図書館ノススメ	あま市立美和中学校 3年 美藤 かのん
奨励賞	祭の継承	あま市立甚目寺南中学校 3年 山田 和摩
奨励賞	幸せを届けるために	豊田市立小原中学校 3年 横目 芽里奈
共感賞 (*)	戦争のない世界へ	稲沢市立大里東中学校 3年 安藤 咲希

(*)「共感賞」は、開催地新城市の中学生から選ばれた5名がジュニア選考委員となり、最も共感できる作品を選出しました。



〈発表者の皆さん〉



〈ジュニア選考委員の皆さん〉

令和6年度「少年の主張」愛知県大会「最優秀賞」作品紹介

「じゃない方」になって気づいたこと

西尾市立鶴城中学校 3年 村木 新

「新のお弁当、美味しそうだね。」

部活動の試合や校外学習などがあると、弁当が必要になる。食事中、弁当をのぞいてきた友達にそう言われることが度々あった。その時、父の顔を思い浮かべ、少し誇らしい気持ちになり、感謝する。

父は弁当が必要だとわかると、数日前から「おかずはどうしたらいいんだ。」と、頭を悩ませているが、当日になるといつも早起きして美味しい弁当を作ってくれる。

皆さんは、弁当を作ってくれるお父さんと聞くと、どんなイメージを抱くだろう。

「男性なのに、料理ができてすごいな。」もしくは、「なんでお母さんが作らないの。」と疑問に思う人もいるだろう。その疑問が湧くのは、きっと父親には「仕事をしてお金を稼ぐ一家の大黒柱」とか、「家事は母親が中心で父親はあまり手を出さない。」などのイメージがあるからだだろう。私の父も、以前はそんな「世間一般の父親像」とそう違いはなく、はじめから料理をしていたわけではなかった。では、なぜ料理をするようになったのか。それは、必要に迫られたからだ。

私が小学六年生になってすぐの四月、母は病気で天国へと旅立った。残された家族で生きていくために、父は仕事と家事をこなし、私たち兄弟三人を育てている。いわゆる「シングルファーザー」の一人だ。母の一件から、私たちは、世間にありふれたごく普通の家族から、普通「じゃない方」の家族へと、オセロがひっくり返るように一変したのだった。

世間一般で見れば、ひとり親世帯が少数派で、その中でも父子家庭は母子家庭より圧倒的に少ない。ひとり親になる理由は、離婚や死別などさまざまだ。それにもかかわらず母子家庭の多いのは、おそらく子育てをする上で母親の方がもともと関わりが深く、家事をしていたという理由からだろう。

日頃、私は家族を支える父の姿を見ている。そんな父に改めてシングルファーザーでどんなことに困っているかを聞いてみると、

「ひとり親世帯に対する支援は、就労や所得に制限がある手当などに限られている。実際は経済面以外にも、家事や仕事の子どもの世話、習い事の送迎など、助けを借りたいことはたくさんあるのに、そういった支援は少ないな。」と話してくれた。こうした背景には、同じひとり親でも、男性は女性と比べ経済的な変化が少なく、それほど困っていないと思われる点があるからかもしれない。

私も、自分が今の状況になって、初めて父子家庭について考えるようになった。もし家庭環境に何も変化が起きなかったのであれば、父子家庭について何も考えることはなく、不自由のない毎日を過ごしていたと思う。では今後、自分が当事者であるかにかかわらず、さまざまな社会問題に対し、どのように目を向けていけばよいのだろう。当事者ではないからと言って無関心でいたなら少数派にいる人々の思いは日の目を見ることなく、消えていってしまうだろう。自分の生きていく社会をそんな社会にしないため、二つのことを心がけたい。

一つ目は、無意識のうちに世間の常識と思い込んでいる見方や、多数派の意見を一方的に押し付けることのないようにすることだ。そのような「アンコンシャスバイアス」と言われる意識が、性別や年齢、家庭や社会での役割に働いている場面があるかもしれない。できる限り先入観をもたず、実態に目を向け相手の立場に立ってものごとを考えることができる想像力を養っていききたい。

二つ目は、たとえ自分が「じゃない方」の少数派になることがあっても、自分の意見を言うべき時にしっかりと伝える、勇気をもった人間になりたいということだ。

このように、社会のさまざまな事象や立場に関心を持ち、適切に自分の考えを主張していくことが、社会全体をよりよい方向へと変えていく力になると、私は信じている。

私は今日も父が献立を考え、父が作った料理を食べる。今はまだこれは一般的「じゃない方」と思われるかもしれない。しかしいつか、そうした少数派の立場の人たちも、少数派「じゃない方」の人たちも誰もが、住みやすい社会が来ることを願っている。(原文のまま掲載しました。)



「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動(夏期)」を実施しました ～非行の芽 はやめにつもう みな我が子～

県民会議では、県、県教育委員会、県警察本部と共催で7・8月の2か月間、「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動(夏期)」を行いました。

青少年へのスマートフォン等の普及に伴い、SNSを起因とする事犯の被害児童数は高い水準で推移しており、特に小学生の被害が近年大幅に増加しています。

また、青少年のインターネットを利用する時間が増加傾向にあり、不適切な受発信により犯罪やトラブルに巻き込まれる機会の増加が、引き続き懸念されています。

そこで、自治体、関係団体等が相互に協力しながら、地域一体となった青少年の非行・被害の防止のための各種取組を実施しました。

【運動の重点項目等】

◎ 最重点項目	インターネット利用におけるこどもの性被害等の防止
○ 重点項目	有害環境への適切な対応 薬物乱用対策の推進 不良行為及び初発型非行(犯罪)等の防止 再非行(犯罪)の防止 重大ないじめ・暴力行為等の問題行動への対応

【運動結果】

各機関・団体では、広報や青少年に対する講話などを中心とした活動を実施しました。

【主な取組】

- ・ 自撮り被害防止アプリ「コドマモ」やフィルタリングの利用促進等に関する啓発活動
- ・ 深夜営業施設等への立入調査の実施
- ・ FM AICHI番組「AICHI SUNDAY TOPICS」における被害防止広報の実施
- ・ 各市町村窓口におけるチラシ、のぼり等での非行・被害防止広報の実施

11月は「子ども・若者育成支援県民運動」の強調月間です

ひきこもりや不登校、若年無業者、貧困などの社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者の問題や、少年非行、いじめ、児童虐待、児童ポルノや児童買春を始め子どもが被害者となる事件など、社会全体で取り組まなければならない課題が山積しています。

県民会議では、こども家庭庁の「秋のこどもまんなか月間」に合わせ、県とともに毎年11月を「子ども・若者育成支援県民運動」の強調月間と定め、各関係機関、団体により、広報啓発活動や各種事業等を集中的に実施し、子ども・若者の健やかな育成や自立への支援を呼びかけます。また今年度、新スローガンを決定しました。「はぐくもう 自分らしく生きる子 愛知の子」です。新スローガンと共に、子ども・若者を取り巻く環境を、大人自身が再度見直し、子ども・若者を地域全体で育成し、自立を促すための支援のネットワークの輪を広げていきましょう。

第63回「青少年によい本をすすめる県民運動」 ～はがきによる読書感想文・感想画を募集しています～

青少年が「優れた本(よい本)」を読み、心の糧とすることは、青少年の想像力、社会性を養うとともに、豊かな人間性を培う上で大きな役割を果たすものです。

県民会議では、読書を通じて青少年の健全育成を図るため、毎年10月の強調月間を中心として、「青少年によい本をすすめる県民運動」に取り組んでおり、今年度で63回目となります。

青少年が本に親しみ、読書習慣をつくる契機となるよう、読書感想文・感想画を以下のとおり募集します。

- 応募方法 下記の募集図書16冊の中から好きな図書を1冊読み、読書感想文・感想画をはがきにかいて、郵便番号、住所、氏名、学校名・学年又は職業・年齢を明記の上、お送りください。
- 応募資格 県内在住又は県内に通学・通勤している方
- 応募期限 2024年11月5日(火)【必着】
- 応募先 〒460-8501 (住所記載不要) 愛知県青少年育成県民会議事務局

読書感想文・感想画募集図書一覧

作品名	著者名／訳者名	出版社	本体価格
幼児向け			
ぞうさんのおふろ	さく:内田麟太郎 え:村田エミコ	童心社	¥950
とんでやすんでかんがえて…	作:五味太郎	偕成社	¥1,300
しんせつなともだち	作:方軼羣 訳:君島久子 画:村山知義	福音館書店	¥1,000
小学校低学年向け			
ともだちはしおりのこぶた	作:真山みな子 絵:山西ゲンイチ	金の星社	¥1,300
バスが来ましたよ	文:由美村嬉々 絵:松本春野	アリス館	¥1,400
おしりたんてい あらたなるかいとう	さく・え トロル	ポプラ社	¥1,200
小学校中学年向け			
金色の約束	作:松本聡美 絵:黒須高嶺	国土社	¥1,400
わたしたちの歌をうたって	作:堀直子 絵:alma	文研出版	¥1,300
山田県立山田小学校 ポンチでピンチ!?山田島	作:山田マチ 絵:杉山実	あかね書房	¥1,200
小学校高学年向け			
じいちゃんの山小屋	作:佐和みずえ 絵:カシワイ	小峰書店	¥1,500
ラベンダーとソプラノ	作:額賀滯 絵:いつか	岩崎書店	¥1,500
科学探偵VS.不死身の黒魔術師 (科学探偵 謎野真実シリーズ)	作:佐東みどり、石川北二、木滝りま、 田中智章 絵:kotona	朝日新聞出版社	¥890
中学生・高校生向け			
きみの話を聞かせてくれよ	作:村上雅郁 絵:カシワイ	フレーベル館	¥1,540
彼の名はウォルター	著:エミリー・ロッド 訳:さくまゆみこ	あすなろ書房	¥1,600
高校生・青年向け			
夢の叶え方はひとつじゃない	著:岡嶋かな多	PHP研究所	¥1,300
宙ごはん	著:町田そのこ	小学館	¥1,600

令和6年度ボランティア活動功労者表彰受賞者一覧

愛知県では、各分野においてボランティア活動を実践し、顕著な事績を収めた個人又は団体に対し表彰を行っています。今年度は、次の方々が受賞されました。

受賞者	(敬称略)	主な活動内容
小林 陽子	(一般社団法人ガールスカウト愛知県連盟)	ガールスカウトの指導及び育成
岡崎保護区BBS会		青少年の健全育成を通じた更生保護活動

「みんなのネットモラル塾」を開講しています

子どもたちが安全にインターネットを利用するためには、保護者と子どもの双方が、インターネットに潜む危険性やその対策を理解し、インターネットを適切に利用するための家庭でのルールづくりを行うことが大切です。愛知県では、家庭でのルールづくりを支援する「青少年のネット安全・安心講座～みんなのネットモラル塾～」を2018年度から毎年開催しており、今年度も引き続き開講しています。

講座の内容

- ・子どもたちが巻き込まれやすいトラブルや危険性、フィルタリングの必要性について理解を深める。
- ・フィルタリングを設定していても防ぐことができないトラブルを回避するため、子どもたちがSNSを利用する際の基本的な注意点や、家庭でのルールづくりについて学ぶ。

実施期間 2024年6月1日(土)から2025年3月14日(金)まで
講座形式 出張講座又はオンライン講座
対象者 保護者、教職員、児童・生徒、その他子どもたちを見守る立場にある大人 等
受講費用 無料

問い合わせ先

ネットモラル塾事務局：県委託先(G&Dソリューションズ※グリーンシティケーブルテレビ株式会社及び
 特定非営利活動法人デジタルライフサポーターズネットによる共同事業体)
 講座専用電話：052-526-8837 (月～金 午前10時～午後6時 ※祝日・お盆・年末年始を除く)

動画のご紹介

愛知県社会活動推進課Webページにて、「みんなのネットモラル塾」の動画を公開していますので、ご活用ください。(右の二次元コードからアクセスしてください。)



子ども・若者未来会議を開催します

子ども・若者の意見表明の機会を設け、社会形成への参画を促し、未来をつくる子ども・若者の活躍の後押しを図るため、8月に開催した「子ども・若者ゼミナール」の代表者(高校生・大学生)が、課題と解決策について話し合った内容を発表するとともに、県外の学生を交えたパネルディスカッションをとおして、子ども・若者目線の主張や自らの未来を切り拓くための決意を取りまとめます。

開催日時 2024年11月2日(土)午後1時～4時(開場 午後0時30分)
会場 ウィンクあいち 10階 1002大会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)
参加募集 どなたでも参加可能 定員100名(参加無料、事前申込制・先着順)
 社会活動推進課Webページ又は右の二次元コードからお申込みください。
 社会活動推進課Webページ：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/syakaikatsudo/>

